

3 トルコギキョウ抑制作型の拡大と地域特産花き等の導入支援

1 トルコギキョウ抑制作型の拡大

■背景とねらい

トルコギキョウの需要は、全国的に高く、特に、10月、11月は業務用を主体に需要が高く、販売単価も安定して取引が行われている。しかし、10月、11月に切り花を行うには、定植後の気象や土壤病害等の要因により、計画どおりに切り花ができてない。そこで、実需者ニーズの高い秋出荷の推進に向けて、①抑制作型の品質向上に向けた技術支援②立枯性土壤病害を主体とした病害対策、②新規就農者へ栽培技術向上支援について取り組みを実施した。

■本年度の取組と成果

1 抑制作型の品質向上に向けた技術支援

(1) J Aと連携して現地ほ場巡回講習会の実施

8月～10月に3回実施した。指導内容として、ハウス内温度を下げる徹底や土壤病害発生ほ場の発生要因究明、チップバーン発生株の仕立ての徹底等について技術支援を実施した。

結果、本年は8月中旬以降の長雨、低温、日照不足の影響や9月下旬以降の高温の影響により、開花の遅れや枝数や輪数が少なくなり品質低下の発生が多く見られたが、10月中旬に切り花最盛期を迎えることができた。

2 立枯性土壤病害を主体とした病害対策

(1) 土壤燻蒸剤＋土壤還元消毒試験の実施

毎年、土壤燻蒸剤による土壤消毒を実施しているが、土壤病害の発生により切り花率が50%以下と低いほ場を借りて、土壤消毒方法の組み合わせによる土壤病害に対する防除効果試験を実施した。

結果、切り花率75～86%まで上げることができた。また、土壤消毒経費は土壤燻蒸剤＋土壤還元消毒によって、通常経費の2倍以上となった。

3 新規就農者へ栽培技術向上支援

新たにトルコギキョウ栽培を始めた5年以下の栽培者5名を対象に毎月1回個別巡回支援。

生育状況にあった作業管理の進捗状況確認や生育状況にあった栽培管理について技術支援実施。

結果、3名の栽培者は、計画どおり切り花ができ

た。2名の方は、定植の遅れ等により、計画どおり切り花ができない結果となった。



写真 土壤還元消毒試験の様子

■今後の課題と対応

- 1 チップバーンの発生により品質低下や切り花ロスが発生するため、チップバーン発生が少ない品種への誘導による安定生産への取り組み。
- 2 土壤病害多発ほ場へ土壤消毒方法の組み合わせによる土壤病害対策の推進
- 3 新規栽培者へ定着に向け、定期的巡回による個別技術支援の徹底

2 地域特産花きの導入支援

■背景とねらい

管内のユウカリ栽培は古くから栽培が行われ、近年常緑花木として実需者から人気のある花木として、各地で栽培が盛んになっている。しかし、実生栽培のため、株の個体差が極めて大きく、収穫後の選花選別に労力が要している。また、生産量を上げるための株当たりの切り枝数の確保が課題となっている。

■本年度の取組と成果

- 1 葉形、草姿の統一を図る目的として、挿し木試験の実施。結果、1年枝を用いて挿し木をした結果、約9%発根が確認できた。また、用土は鹿沼土で約16%の発根が確認できた。
- 2 切り枝数確保に向けて、台刈り高さ試験の実施
結果、台刈り高さを30cm以上にすることで、切り枝数の増加が確認できた。

■今後の課題と対応

- 1 1年枝の灰汁抜きへの取り組みによる、発根率向上
- 2 切り枝数の確保対策として摘芯栽培の検討

(技術経営係 中村)